

赤松連城 あきまつらね 僧侶。天保十一年一月十七日加賀國生れ、大正八年七月二十日歿（八四—一九九）。幼名宇三郎。號圓通、榕蔭道人。眞宗本願寺派。明治五年島地黙齋と共に日本僧侶初の歐米視察。二十三年佛教大綜理、三十六年勸學、大正三年本山の疑獄事件に連坐して辭任した。

著書に『廣文學兩徴』（明治十一年五月京都・文昌堂）、『新佛教演

說集』（合著・佐々木慧雲編、明治二十二年一月—二十六年京都・圓教

書院）、『明治廿六年佛教講話集』（合著・廣田一乘編、明治二十六

年十月—二十九年佛教學會）、『單人覺悟一夕話』（昭和二十八年一月）

十五（日眞宗傳道會）、『忠愛小言』（明治二十一年四月十二日京都・

施本會本部）、『遠慶宿縁』（合著・大八木大行編、明治四十四年二

月十日京都・關次郎刊）等。